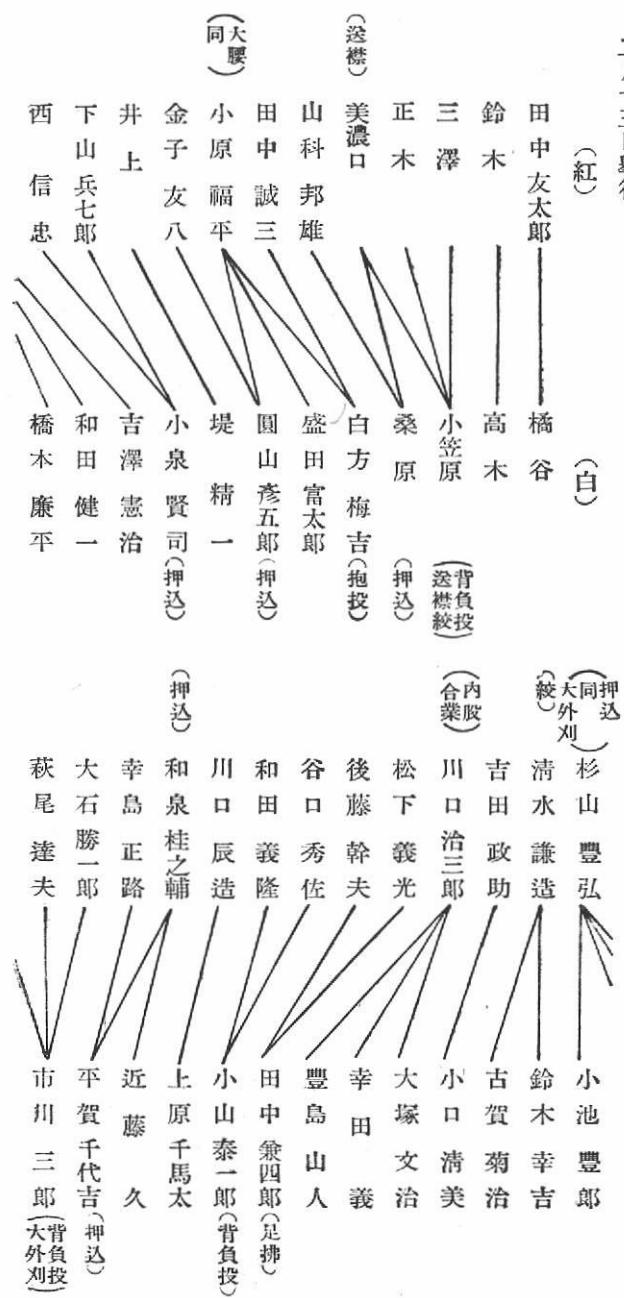
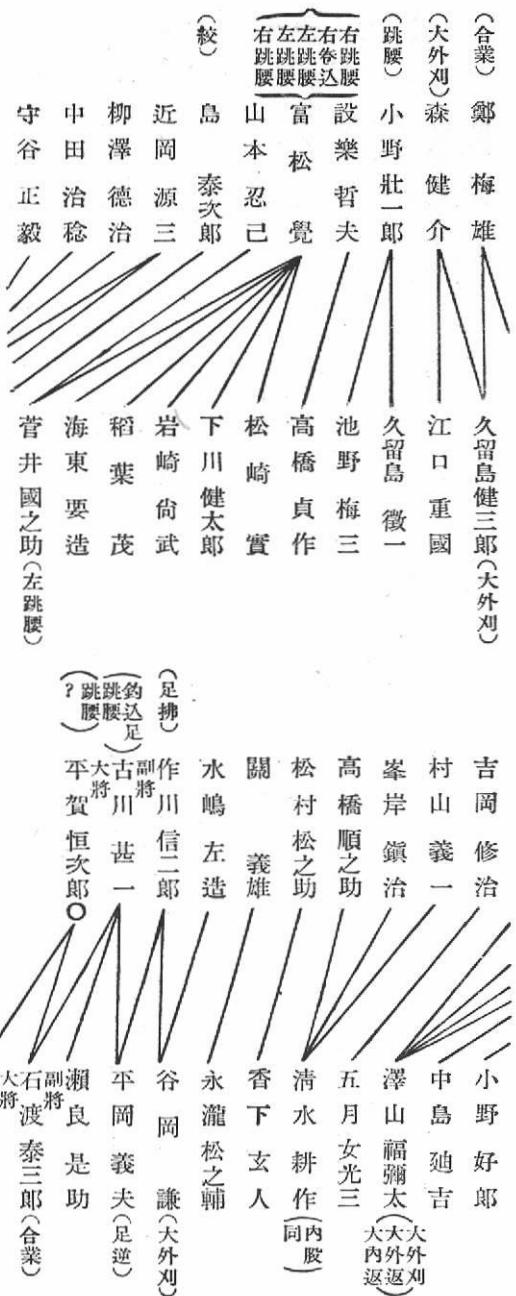


## 一四 明治四十三年史

一月十三日舉行





## 本年度卒業生

平賀恒次郎、早川章次郎、谷岡謙、瀬良是助、松村松之助、香下玄人、岩田順一、金田政治、豊島山人、清水謙造。因に右諸氏は柔道部に對し、卒業記念として衡器壹臺を寄贈せられたるは、一同の感謝に堪へざる所であつた。

## (一) 部長送迎(堀切氏新任)と新人部員歓迎

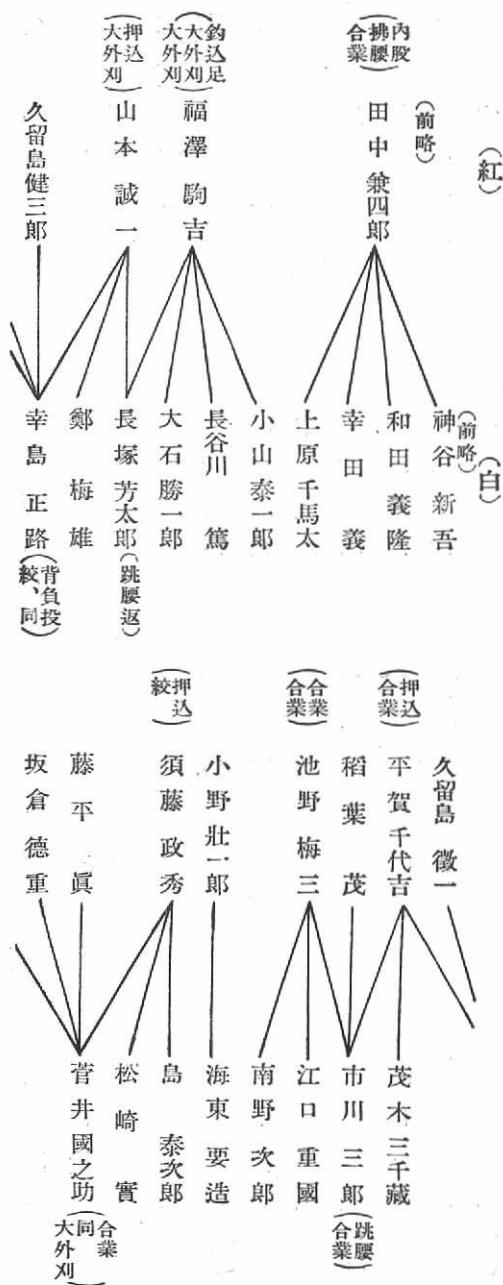
此の年福澤三八氏に代り、先輩堀切善兵衛氏部長に就任せらる。堀切氏は明治二十九年より三十六年迄の部員であつて

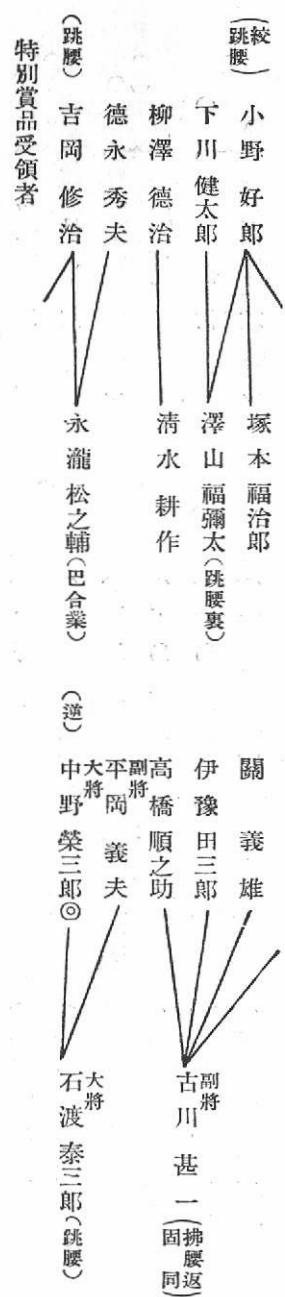
其間幹事として貢献する所尠くなかつた。在塾中螢雪の功空しからず、學業優秀なる麒麟兒であつたと共に、又邪を排し正を踏んで怖れざる高邁の士でもあつた。卒業後塾の留學生として歐米に學び、歸來教授として塾に教鞭を執つて居られ、其侃諤の辯論は學生時代より鳴らしたものであつた。今此の先輩が柔道部全盛時代の新部長として迎へられたのである。

右新舊部長に對して送迎の意を表すると共に新人部員の歡迎を兼ね、五月二十九日紅白勝負舉行。總勢百三十名、二軍に分れての大試合であつて、初め約三分の二までに、白軍には十二人を抜きたる二谷丑之助氏あり、紅軍にも亦四人を難ぎ倒したる高橋篤及び岩山山泰の二勇士あり、頗る興味ある取組であつたが、茲には最後の三分の一の勝負のみを掲げて置く。

## (紅)

## (白)





前部長寄贈特別賞品

毛 布

稽 古 着

幸島正路  
二谷丑之助、上村益郎

新部長寄贈特別賞品

稽 古 着

高橋篤、甲斐義智

### (三) 第二十回 大會

十一月三日前八時より第二十回柔道大會を催す。先づ午前中双方三十一名宛の紅白勝負あり、午後有級者、有段者の勝負を行ふ、その成績左の如し。

三 本 勝 負  
(有 級 者)

(一) ○(日) 小泉通曉(内股)  
 ○(日) 和田義隆  
 ○(日) 若園圓格  
 ○(高) 高梨尊雄(背負投)  
 ○(高) 鈴木勇藏  
 ○(二) 二谷丑之助(合業)  
 ○(獨) 武田薰  
 ○(獨) 高橋篤(押込)  
 ○(獨) 丸木清(内股)  
 ○(獨) 山本誠一(同體落)  
 ○(六) ○(美) 渡邊信助  
 ○(六) ○(美) 長塚芳太郎(押込)  
 ○(七) ○(附) 富田正之助  
 ○(八) ○(美) 小山泰一郎  
 ○(九) ○(日) 中臣徳信  
 ○(和) ○(桂) 桂之輔(合業)

(一) ○(錦) 福士繁吉  
 ○(錦) 幸田義(合業)  
 ○(錦) 石黒成晴(押込)  
 ○(水) 大場哲夫  
 ○(水) 田中兼四郎(小外刈)  
 ○(講) 細井久留島健三郎  
 ○(講) 猿田春景  
 ○(高輪) 長谷川篤  
 ○(早) 猿田春景  
 ○(附) 牧野千里  
 ○(附) 松崎千実  
 ○(青) 幸島正路  
 ○(深) 松島辰雄(跳腰)  
 ○(茂) 木三千藏

(一) ○(高) 川口四郎(合業)  
 ○(高) 下川健太郎  
 ○(高) 川島精四郎(合業)  
 ○(高) 島泰次郎  
 ○(早) 川崎憲太郎  
 ○(早) 須藤政秀(左腰投)  
 ○(早) 織貫和夫  
 ○(高師) 江淵藤一(跳卷)  
 ○(中央) 小野壯一郎  
 ○(中央) 羽鳥甲斐雄  
 ○(講) 三村喜代之助  
 ○(講) 近岡源三(綾)  
 ○(附) 矢田部達郎  
 ○(附) 藤平眞  
 ○(水) 清水覺  
 ○(水) 富松覺

(一高) ○	坂倉 徳重	(合業) (跳腰)
(二八) ○○	赤沼 倉徳	
(講) ○○	金野 崎尚武	
(二九) ×	岩崎 尚武	
(附) ○○	矢田 部達郎 (足拂返)	
(三〇) ○○	柳澤 徳治	
(高商) ○○	井出 欽哉	
(三一) ○○	湯村 藤助 (跳腰)	
(高商) ○○	福田 康三	
(高商) ○○	守谷 正毅 (左背負)	
(三二) ○○	轟 (同)	
(高商) ○○	岡安 寛司	
(講) ○○	金野 和夫 (返業)	
(三七) ○○	松野 和夫 (返業)	
(高工) ○○	栗田 信一	
(高工) ○○	菅井 虎之助 (足落)	
(高工) ○○	市岡 義一 (大外刈)	
(一高) ○○	西川 塚本福治郎 (跳腰)	
(高工) ○○	西川 塚本福治郎 (跳腰)	

右三時四拾五分に終りて部長堀切氏の挨拶あり、それより左の順序に移つた。

固 之 形	投 之 形	四 段 中 村 愛 作
勝 負 之 形	四 段 塚 本 太 作	
四 段	三 段	
石 渡 泰 三 郎	四 段	中 村 愛 作
	初 段	古 川 甚 一
	四 段	五 月 女 芳 三 郎

(初段)

(○○(青)) 今泉 清 (腰投)  
 (二) 小野好郎 (返業)

(高工) 越野銀次郎  
 (二) ○ 吉岡修治 (返業)

(○○(早)) 森永 (跳腰)  
 (三) 中村壯吉 (同)

(○○(早)) 吉田新太郎 (大外刈)  
 (四) ○ 峯岸鎮治 (鉤込足)

(五) ○ (附) 吉武正雄  
 ○ 伊豫田三郎 (跳腰)

(六) ○ (獨) 飯塚茂 (返業)  
 (七) × 岡本忍己

(○○(講)) 橋本正次郎 (大外刈)  
 (八) ○ 中島延吉 (背負投)

(高師) 村井榮藏  
 (九) ○ ○ (早) 澤山福彌太 (返業)

(○○(早)) 久米榮輝  
 (十) ○ × 關義雄

(講) 中神藤一  
 (十一) ○ 上原永瀧松之輔

(講) 永瀧松之輔 (大内刈)

(深) (講) 上原永瀧松之輔 (返し合業)

(高工) 松尾恒四郎 (逆)

(○○(講)) 松尾恒四郎 (合業)

(○○(講)) 真山水島左造 (押込)

(苦米地) 菅井國之助 (講)

(苦米地) 菅井國之助 (講)

(二五段)

(○○(講)) 岡野正永 (腰投)  
 (二) 田代包吉 (講)

(錦) 新免伊祐 (講)

(○○(講)) 宇野治吉 (講)

(高) 松尾將次郎 (背負投)

(帝大) 野田健造 (同)

(三段) 松尾將次郎 (左大外)

(高工) 新莊甚 (魏)

(古川甚) (返業)

(新莊甚) (返業)

(新莊甚) (返業)

(新莊甚) (返業)

(四) 雜記

## 普通部對商工部第一回紅白勝負

普通部對商工部の紅白勝負は、二月二十四日午後三時より開始された。これはその第一回であつて、以後毎年大會の際に行はれ、年中行事の一つとなつた。

(普通部)

(膝車) 甲斐 義智 飯野 潤一郎  
酒井 萬馬

小口 清美 斎藤 耕作(押込)

石塚 彌之助 (押込) 川口 辰三

新田 長八 山浦 久吾

(絞) 小池 下山 兵七郎

(押込) 小原 福平 永島 政義

西 信忠 幸島 正路

(合業) 鄭 梅雄 望月 雄吉(合業返)

吉田 政助(巴投) 江口 重國

(合業) 郑 梅雄 望月 雄吉(合業返)

(背負投) 佐 藤 松下 義光

(背負投) 佐 藤

(商工部)

(釣込足) 幸田 義文 大塚 文治(足拂)  
土井 徹太郎 清水 謙造(横捨身)

(押込) 川口 辰三 豊島 山人

(背負投) 橋 本 潮戸 鈴司

稻垣

關 庆

幸島 正路 山本 誠一(體落)

(大外返) 市川 三郎 小野 壮一郎(跳腰)

江口 重國 尾上 繁二(體落)

(大外返) 島 泰次郎 川口 喜一郎

(同大外刈) 島 泰次郎 小野 壯一郎(跳腰)

(大外刈) 菅 井 國之助(大將) 設樂 哲夫(跳腰)

(大外刈) 菅 井 國之助(副將) 下川 健太郎

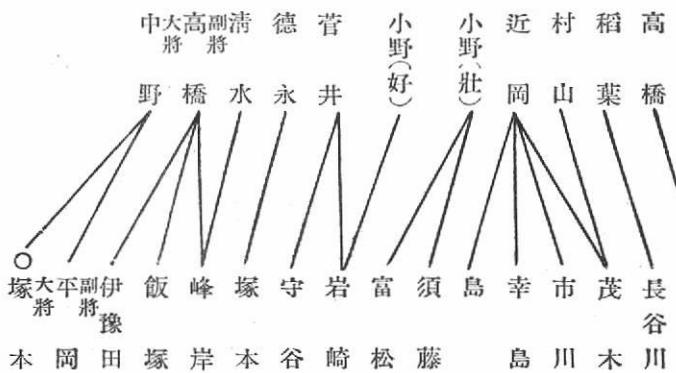
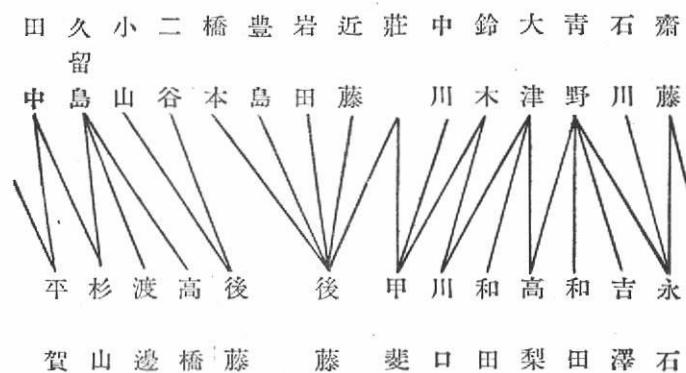
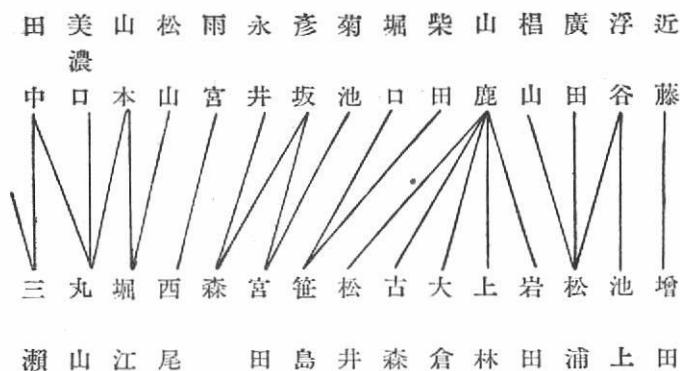
七月十五日より九月十日に至る夏季休暇を利用して道場の床下を修理し、之を彈機附に改めた。

道場修理ご落成祝賀會

部員に取つては家庭同様ともいふべき此の道場の修理成り、稽古合戦も頗る好くなつたので、祝賀の意味旁々新しい氣分で腕の冴えを見せんと、九月二十五日に左の紅白勝負が行はれた。

(紅)

(白)



## 遠足會

十月十五、六、七日の三日間、我部は伊香保、榛名、前橋共進會に遠足を試みた。一行五十名、會費二圓。

第一日 午後二時上野發列車にて高崎に向ひ、高崎より濱川迄電車、濱川より伊香保迄徒步、伊香保着は午後十時であつた。

第二日 各自或は榛名湖の景を探り、或は附近の山を踏破するもあり、午後七時より茶話會を催した。

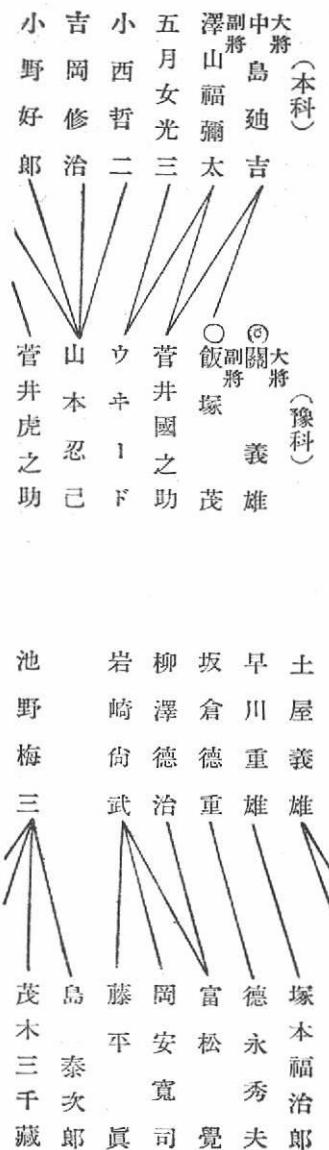
第三日 午前八時伊香保發、濱川より前橋迄電車、前橋にて共進會を參觀し、午後四時二十分前橋發列車にて歸京、上野

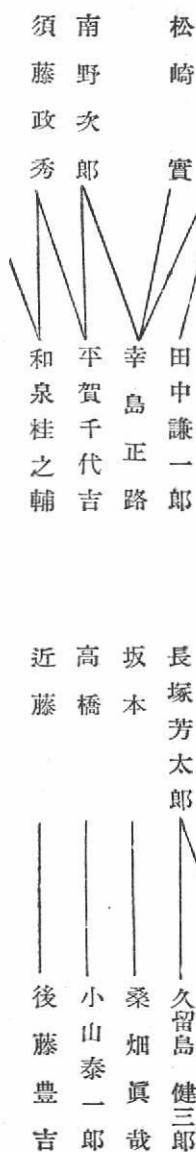
着は午後九時三十分であつた。

上野ステーション前にて部員一同柔道部萬歳を三唱して、本遠足會を目出度解散した。

## 本科對豫科紅白勝負

十月二十八日





## 部員派遣

の十月九日東洋協會大會へ

三級 田中謙四郎（勝）、小野壯一郎（敗）、一級 菅井國之助（勝）

○十月十七日高等師範學校へ

四級 和田義隆、二級 茂木三千藏、同市川三郎

○十月二十二日附屬中學大會へ

初段 關義雄（敗）、同飯塚茂（敗）、三級 甲斐義智（勝）

○十月三十日外國語學校大會へ

一級 塚本福治郎（勝）、同岩崎尚武（敗）

○同日獨逸協會へ

初段 菅井國之助（敗）、五月女光三（敗）

○十一月六日早稻田大學大會へ

一級 守谷正毅（勝）、同德永秀夫（引分）、初段 飯塚茂（敗）、同菅井國之助（勝）、同吉岡修治（引分）

○同日美術學校大會へ

一級 菅井虎之助（勝）、岩崎尙武（勝）

○十一月十三日錦城中學大會へ

幼年二級 島泰次郎（敗）、初段 中島廸吉（勝）、同小野好郎（勝）

○十一月十九日高輪中學大會へ

二級 尾上繁二（勝）、一級 藤平眞（勝）、初段 伊豫田三郎（勝）、二段 清水耕作（敗）

○十一月二十七日中央大學大會へ

一級 近岡源三（勝）、初段 山本忍己（勝）、四段 石渡泰三郎（五人掛、三人目にて敗）

### 進級一括

○六月十八日月次勝負の結果

一級へ 山本忍己、下川健太郎、坂倉徳重、岩崎尙武

○九月二十五日の道場修理祝賀紅白勝負の結果

幼年組二級へ 平賀千代吉、長谷川篤、稻葉茂、村山悌三（編入）、茂木三千藏

○十月十六日附昇級者

初段へ 澤山福彌太、五月女光三

二段へ 清水耕作

○十月二十三日附昇級者

初段へ 小西哲二、峯岸鎮治、吉岡修治、中村壯吉、中島廸吉、菅井國之助、山本忍巳、小野好郎

○十月二十七日編入せられたる者

二級へ 山本良太郎

○十一月三日の大會勝負の結果

幼年組二級へ 長塚芳太郎、江口重國

幼年組一級へ 南野次郎、伊藤巖

二級へ 山本誠一、坂本信吉、田中兼四郎

一級へ 岡安寛司、土屋義雄（以上編入）、池野梅三、近岡源三、藤平眞

○十一月二十六日の月次勝負の結果

幼年組二級へ 上原千馬太

一級へ 海東要造

## 一五 明治四十四年史

### (一) 寒 稽 古

今年の寒稽古は一月の十三日から二月十一日迄三十日間行はれた。朝の四時から残月を踏みしだきて綱町に參集、エイ